

150周年 UKAをつなげよう 広げよう 高めよUKA^{う か} ～ふるさとを愛し、夢にチャレンジする宇賀っ子の育成～

下関市立宇賀小学校

教頭 弘中 直樹

1 はじめに

本校は、今年創立150周年を迎えた。昨年度から実行委員会を立ち上げ、児童、保護者、地域が一体となって準備を進めてきた。創立150周年記念として、昨年度(令和4年2月)は創立150周年記念花壇、今年度は、ふれあい大運動会(5月)、記念式典(11月)、記念植樹式典(令和5年1月)の計4回を保護者、地域と協働で実施した。

本校では、地域が学校教育活動に協力的でかかわりも多くある。これまで培ってきた宇賀の偉人や歴史的建造物についてのふるさと学習、地域を散策する「ふれあいウォーク」、地域の方を講師としたグラウンドゴルフ・文化伝承交流会、毎日の登下校を学校まで一緒に歩いてくださる見守り隊との交流等、多岐に及ぶ。

今年度はさらに「150周年」をキーワードに、児童の地域への愛着、感謝の念を様々な形にして表現し、発信していくことで、児童一人ひとりを大切にしつつ、宇賀地域をより「つなぎ」「広げ」「高め」ていく持続可能な取組を推進している。

2 創立150周年と宇賀地区の「つながり」

(1) 創立150周年記念ふれあい大運動会(5月28日)

昨年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な学校行事が中止、縮小された。迎えた今年度の運動会はコロナ禍以前の地域合同ふれあい運動会を創立150周年記念イベントとして実施することができた。

本校の特色ある運動会種目として、地域・保護者の方と一緒に踊る「宇賀っ子ソーラン」がある。縦割り班の4グループが高学年を中心にタブレット端末の踊りを見ながら自主的に教え合いを重ね、さらに宇賀地区スポーツ振興会と連携し、講師を招いて児童、卒業生、保護者、地域の方、教職員等による合同練習で磨きをかけて本番に臨んだ。運動会当日は参加者全員が一体となった心躍る演技となった。



宇賀っ子ソーラン

また、地域の方と児童がペアになり、3回以内にホールポストに入れるグラウンドゴルフ「めざせ、今日こそホールインワン!」もある。地区の方と授業やクラブ活動で練習時間を確保し、打ち方等を指導していただき、交流を楽しんでいる。



めざせ、今日こそホールインワン!

他種目でも地区の自治会長が大漁旗を振って大声援の中での全校リレー等、様々な場面で学校と地域がつながり、協働で運動会を盛り上げている。



地域の方の大漁旗による熱い応援

運動会のフィナーレは、150周年記念イベント
①「世界に一つの宇賀っ子人文字 ～みんなでUKAをつくらUKA～」、②「遠くに届け！150周年うかバルーン(バルーンリリース)」である。

①の人文字では、事前に150周年実行委員(学校運営協議会委員、自治会長等)を中心に人文字のデザイン、隊形、手に持つ物、色等の見栄えを試しながら、児童と練習を重ねた。手に持つように決まったボンボン(バルーン)は日曜日の環境整備活動の後に児童と保護者を中心に宇賀地区スポーツ振興会も協力して準備した。当日は児童・保護者・地区民で「UKA」の文字をドローン撮影して記念に残した。

バルーンリリースは、児童、保護者、地区民で200球の環境にやさしいバルーンにメッセージをつけて6年生のカウントダウンのかけ声と音楽に合わせて空へ！たくさんの色とりどりのバルーンが一斉に宇賀の青空に舞う様子は、言葉では言い表せないくらい胸が熱くなるものがあった。宇賀小の150周年をみんなで祝い、その場にいた学校、地域の方々の心が一つにつながり、感動が広がり、高まった瞬間であった。



人文字～みんなでUKAをつくらUKA～



バルーンリリース

・奇跡の出会い難波小&大町小

バルーンリリースには続きがある。なんと飛ばした風船のうち2つが愛媛県松山市立難波小学校、西条市立大町小学校(以下、難波小、大町小)に届き、返事の手紙が送られてきたのである。さらに、難波小は今年150周年、大町小は来年150周年を迎えるとのこと。その後、両校とオンラインで交流し、難波小は9月にPTA会長をはじめとする保護者、児童、教職員の総勢17名が本校に訪問してくださり、実際に本校児童、保護者、地域の方と交流が実現したのである。新聞、テレビでも「奇跡の出会い」として取り上げられ、現在もオンライン交流でつながっている。



難波小との交流



(2) 創立150周年記念式典(11月13日)

11月13日(日)に下関市副市長をはじめ、下関市教育委員会教育長、地区の来賓、学校運営協議会委員、自治会長からなる実行委員、地域の皆様、保護者等々の多くの方に出席していただき、創立150周年記念式典を挙行了た。



三木潤一下関市副市長

宇賀小学校出身の三木潤一下関市副市長は講演の中で「夢は一度早い段階でもっておくといい。途中で変わってもいいから。自分の生き方を考えておくことが大切と…。また、グローバルな視点で世界を良くすることが宇賀を良くすることにもなる」と述べられた。この「夢を…」という言葉は本校の教育目標「夢に向かって挑戦を続ける宇賀っ子の育成」とつながり、後日「学校の中心で夢をさけぼう」プロジェクトとして実施されるのである。夢をさけぼうプロジェクトでは、全校児童29人が瞳を輝かせ、元気いっぱい将来の夢を響き渡らせることができ、周りの児童は拍手喝采! 大声援! 「夢に向かって挑戦を続ける宇賀っ子の育成」に向けて大きく前進することができた。宇賀地区の大先輩である副市長の講演が、自分の夢を大声で友達に語る活動へとつながり、その夢をかなえるにはどうすれば良いかを児童は模索し、さらにいろいろな人とつながり、広がっていくことであろう。

記念式典では本校児童の大部分が通う夢が丘中学校(以下、夢が丘中)とのつながりにより、夢が丘中吹奏楽部による国家、校歌の演奏、さらに「みんながみんな英雄」の演奏曲に合わせて児童がダンスを踊ることも実現したのであった。宇賀小学校の150歳を祝って歌を歌いたいという児童の願いも取り入れ、150周年を会場のみんで「Happy birthday」の歌で祝うこともできた。



夢が丘中吹奏楽部による演奏



夢が丘中吹奏楽部と宇賀小児童のダンスコラボレーション

また、PTAのプロジェクトとして、150周年のお祝いメッセージを募集し、「150周年の木」として展示した。地域の方に土台の枠を作ってもらい、参観日にPTAで木の幹を作製し、寄せられたメッセージを貼り、児童が地域の方と一しょに作った文字を飾り付け、保護者がシール等で仕上げをした。宇賀小学校時代の懐かしい思い出やエピソード、これからの宇賀小学校への思い等々、多くのメッセージが届き、遠くは県外からも寄せられた。

式典後は、引き続き午前中に学習発表会、午後からは宇賀地区ふれあいまつりで地域と交流をすることができ、充実した1日となった。



児童・保護者による150周年の木の制作



150周年の木

(3) 創立150周年記念植樹式典（1月30日）

創立150周年記念行事の最終は、児童の願いであった花や木がいっぱいの学校になるように、ローソン「緑の募金」事業を活用し、藤棚のあった場所に2種類の桜（2本）、2種類の紫陽花（6本）、ローズマリーを来賓、児童、保護者、学校運営協議会委員が見守る中、植樹した。さらに、校庭の木30種類に銘版を設置し、誰もが木に親しみを持ち、花や木を通したつながり、広がりが生まれることを期待している。



150周年記念植樹式典記念撮影



植樹



桜、紫陽花、ローズマリー

3 終わりに ～ふるさとを愛し、夢にチャレンジする宇賀っ子たち～

このように今年1年「創立150周年記念」をキーワードに、全校児童参加の宇賀小会議で提案された子どもたちの願い（150周年で〇〇をしたい）をふまえ、地域と連携しながら、記念行事等を進めてきた。宇賀っ子ソーラン、記念の人文字やバルーンリリース、「Happy birthday」の歌、中学生とのダンスコラボレーション、夢をさけぼうプロジェクト、植樹等である。

150周年のイベントを機に今まで以上に地域の方が学校に頻繁に訪れ、アイデアを形にしてくださり、つながりが確かな絆へと変わりつつある。一昨年度、児童中心に考案した本校マスコットキャラクター「宇賀っしょい」も活用しながら、宇賀の魅力を発信することを通して、ふるさとを愛し、誇りに思い、このような大人になりたいと未来の夢に向かってチャレンジする宇賀っ子の育成につなげている。

